

氏名	三原正義
学位の種類	医学博士
学位授与番号	博甲第 726 号
学位授与の日付	平成元年 3月 28日
学位授与の要件	医学研究科外科系眼科学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学位論文題目	ビデオ蛍光血管造影と画像解析による網膜血管閉塞性疾患における網膜循環の研究 第 1 報 陳旧性網膜静脈分枝閉塞症 第 2 報 網膜静脈分枝閉塞症 発症早期について
論文審査委員	教授 増田 游 教授 青野 要 教授 村上宅郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

網膜血管の閉塞性疾患において循環動態を定量化することは、病態解明、病期判定などに有用である。網膜静脈分枝閉塞症についてビデオ蛍光血管造影と画像解析装置により網膜平均循環時間 (MCT) を測定した。MCT の測定領域は閉塞領域として閉塞分枝をもつ 1 象限, その対照領域として非閉塞領域の 1 象限である。対象は発症早期例と陳旧例であり, 陳旧例はさらに光凝固を施行していない群 (非光凝固群) と光凝固を行なって長期間経過した群 (光凝固群) に分け検討した。

その結果, 発症早期例において閉塞領域の MCT は対照領域と比較して有意に延長していた。この原因として閉塞領域の血流のうっ滞が考えられた。しかし陳旧例においては非光凝固群, 光凝固群ともに閉塞領域の MCT は, 対照領域と比較して有意に短縮していた。そしてこれら両群の MCT の短縮の程度は有意差を認めなかった。この原因として閉塞領域での側副血行路形成による優先的な灌流経路の存在が考えられた。そして光凝固は長期的にみれば側副血行路に影響を及ぼさないものと考えられた。MCT は網膜静脈分枝閉塞症の経過によって変化する血行路の機能を定量的に反映するものと考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は, ビデオ蛍光血管造影と画像解析装置を組み合わせた新測定システムを応用

して、網膜静脈分枝閉塞症での局所循環異常の病態を網膜循環時間の変動から考察し、その治癒過程について新知見を見出すと共に、この測定法を用いて本症発症後の病理学的変化の過程を定量的に把握し得るといふ、臨床的有用性を示した優れた内容であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。